

「折り紙ボランティア養成講座」

沖野市民センター



1 事業概要

利用者アンケートで、「特技や趣味を持っている住民の力を利用して、様々な世代の人との学び合いや交流を図ってはどうか」という提案や「折り紙を学びたい」という要望がありました。

そこで、沖野老人福祉センターと連携して地域人材を発掘する目的も含め、折り紙ボランティアとして活動したい方を募集し、平成30年度から養成講座を開始しました。将来は地域で活躍できる自立した団体を目指しています。

2 今年度の活動

当館の主催事業「伝えよう仙台伝統七夕」において沖野東小学校、沖野小学校への七夕飾り作成や飾付を当講座受講生が担うことになり、6月8日、15日の2回の講座で準備をしました。

7月6日、7日で各小学校の児童と飾り付けを通して交流を深めました。

9月22日に予定していた仙台市博物館からの出前講座はまん延防止等重点措置の為、2月に延期しました。

10月21日、12月16日には若林区中央市民センターを拠点に活動する折り紙ボランティア「白い花の会」の菊地文代氏から季節の折り紙の指導をいただきました。受講生のリーダーとなり得る方々に事前講習をし、当日他の受講生に教えることによって細かい作業でもスムーズに進めることができました。市民センターは改修工事で11月から休館のため12月からは連携先である沖野老人福祉センターを会場に開催しています。



3 成果と課題

複数年事業2年目の令和元年より、沖野小学校で七夕飾りづくり、夏休みの児童館や地域の施設等で季節の折り紙指導のボランティア活動の実践研修を行いました。受講生は、学んだ事を活かせるかどうか等、ボランティア活動に不安を抱いていたようですが、教えるのではなく「一緒に折り紙を楽しむこと」を意識し、活動を通して地域の方と交流することで達成感を持ち始めていました。コロナ禍のこの2年間は、ボランティア活動実践研修は皆無で技術習得のための講座も少なくなりました。しかし現在は、受講生同士の絆は深まり、技術も向上してきています。来年度はボランティア活動実践研修の回数を増やし、活動への意識や楽しさを再確認し、地域のボランティア団体として自立していけるような充実した内容にできればと思います。

4 今後の展望

沖野地区は児童施設や福祉施設が多くありボランティアのニーズが高い地域です。受講生はボランティア活動に不安を感じながらも活動前に自発的に集まって復習をするなど、お互いの立場を理解し合いながら活動するサークルとして仲間意識が徐々に出来上がっています。コロナ禍や市民センター改修工事で思うような活動ができない状況ではありますが、受講生が自分たちの地域を考えて活動する市民企画事業であり、ボランティアサークルとしての社会的立場を確立し、地域づくりに繋がる人づくりの輪が定着できるよう支援をしていきたいと思っています。

